

図4-7 現在の業種 (理学系と工学系)

4.3 現在の職種

回答者の現在の職種の分布を図4-8に示す。研究開発 29.0%、「技術(ハード, ソフト)」 20.6%、それに「技術営業」 3.5%、「技術管理・企画」 4.1%を合わせて50%を越える出身者が、「産業界」で科学・技術に直接関係する職業についている。

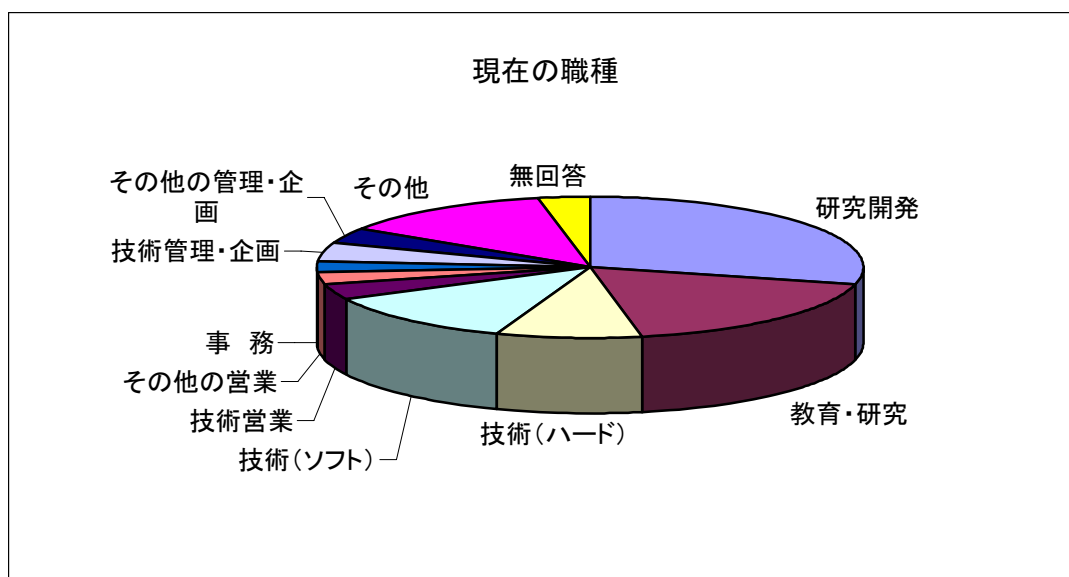


図4-8 現在の職種

現在の職種と業種の相関

図4-9に現在の職種と業種の相関を示す。縦軸は、それぞれの組み合わせ（例えば、技術営業&製造業）に属する回答者数の回答者総数に対する比を示している。この図から「研究・開発」の大部分は「産業界」、それも「製造業」の回答者からなることがわかる。それに対して、「教育・研究」の大部分は業種を「高等教育・研究機関」または「初等中等教育機関」と応えた回答者から成っている。

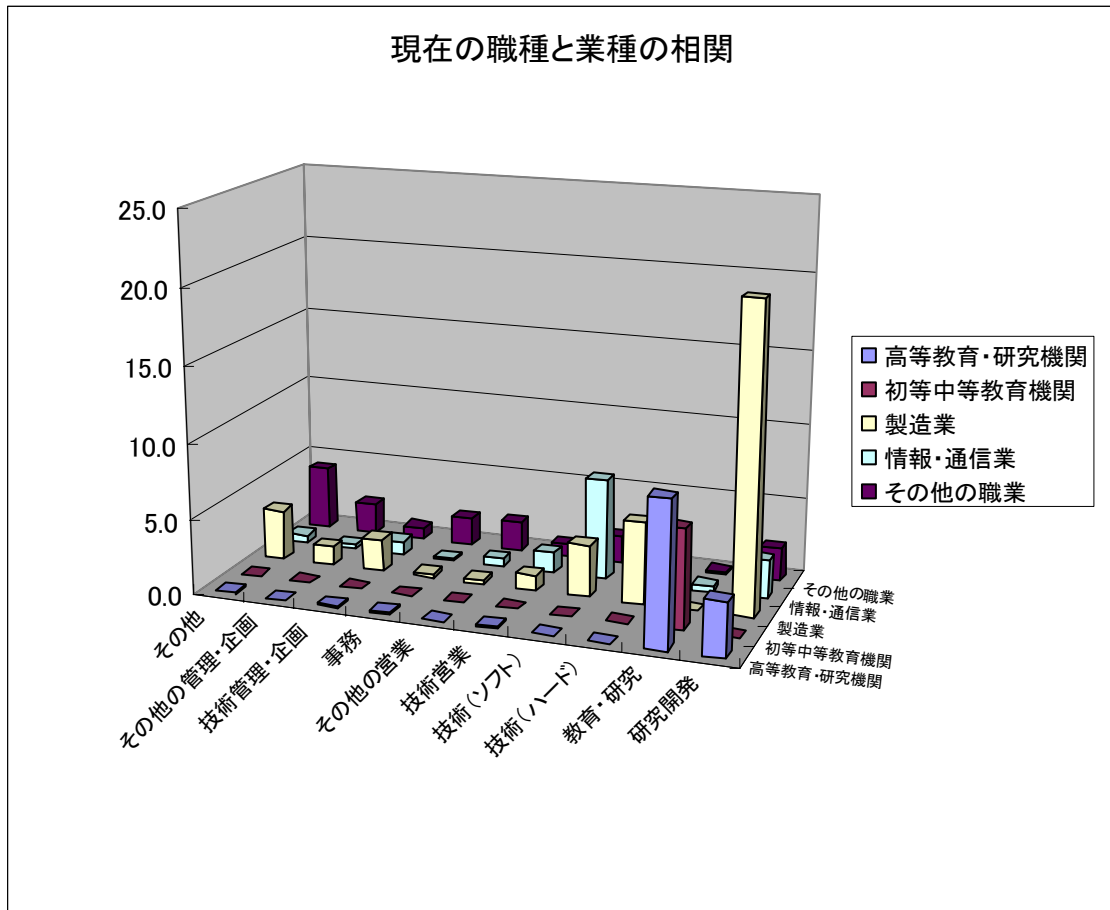


図4-9 現在の職種と業種の相関

大学カテゴリー間の比較

現在の職種を大学カテゴリー別に分類してみると、図4-10に示すように「研究・開発」では「国公立A」、「国公立B」、「私立」の順で割合が高く、「技術(ソフト)」では逆の傾向があることが分かる。

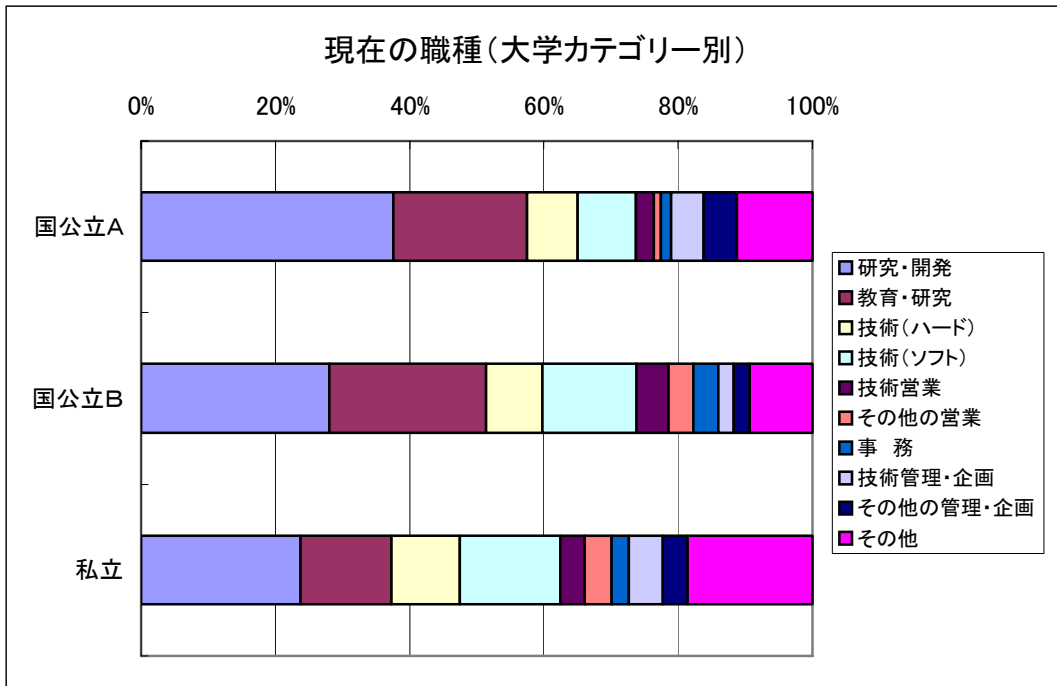


図4-10 現在の職種(大学カテゴリー別)

現在の職種と最終学歴の相関

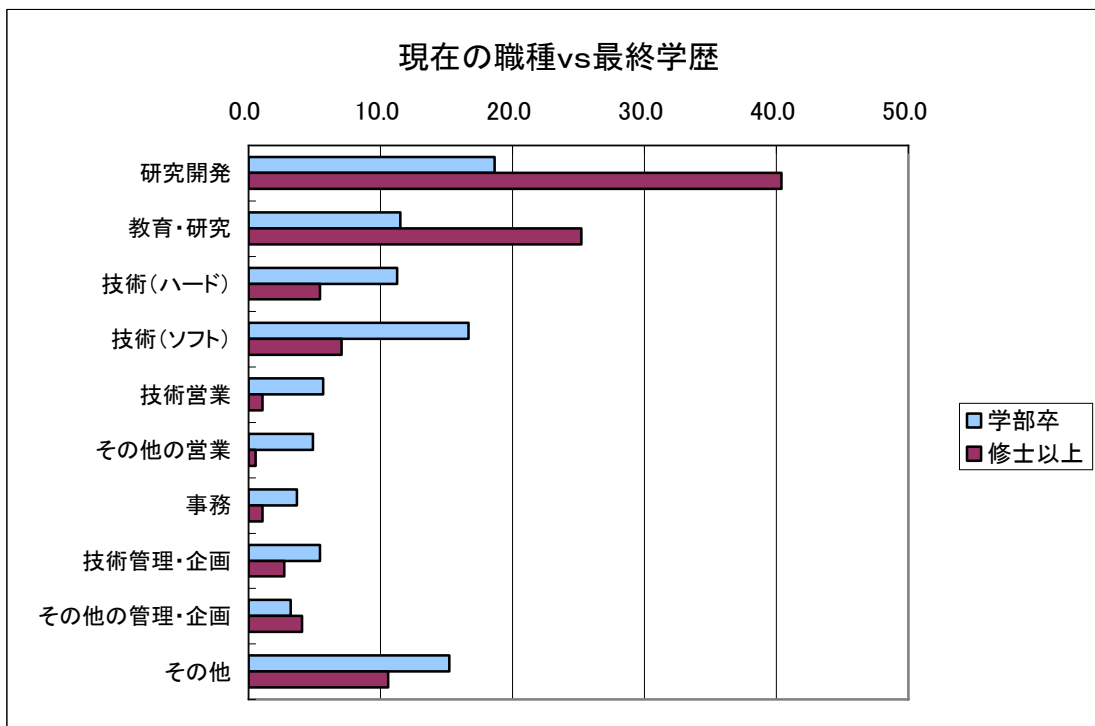


図4-11 現在の職種(学部卒と修士以上)

職種を最終学歴で分類して見た結果を図4-11に示す。「修士以上」の修了生は「研究開発」40.4%と「教育・研究」25.2%の二つの職種に集中しており、合わせて約65%の修

了生がこの二職種についていることが分かる。これらの傾向も大学カテゴリー等にほとんど依らない。この結果は、「修士以上」の修了者が、一般に、より専門性の高い職種に就く傾向があることを裏付けている。

なお、すでに述べたように「研究開発」従事者のほとんどすべてが「産業界」に所属しているため、修了者の70%に達する大部分が「産業界」に進出するという状況は「修士以上」の修了者についても変わらない。

4. 4 有意義だった学部科目

4. 4. 1 有意義だった学部物理科目

「学部時代に学んで有意義だったと感じている物理関係科目はどれですか（複数選択可）」（以下、「有意義だった学部科目 [物理]」と表記）という設問への回答を図4-12 (a) に棒グラフで、また、図4-12 (b) にレーダーチャートで示す。

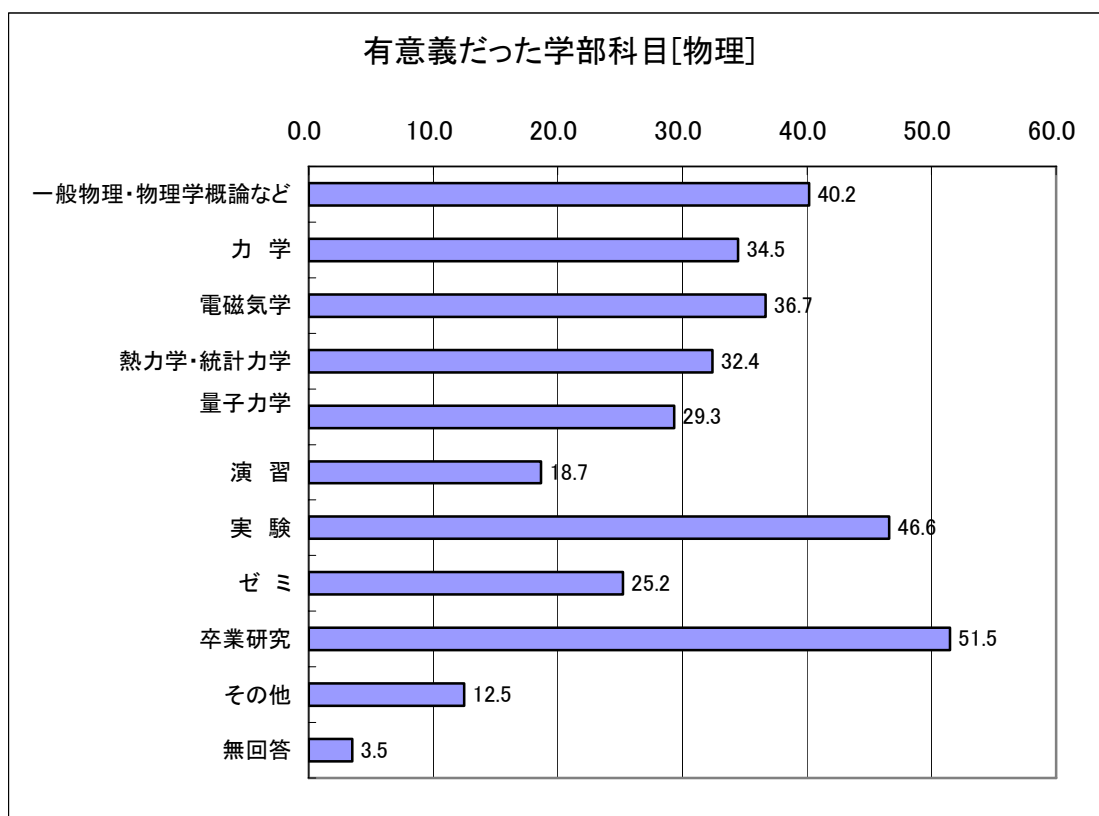


図4-12 (a) 有意義だった学部科目 [物理]・・・棒グラフ

「有意義だった」との回答者比率は、「卒業研究」が51.1%で最も大きく、「実験」46.6%がこれに続く。これらに対して、講義科目の比率はやや少ないが、そのなかで「一般物理・物理学概論」が40.2%と比較的高い。その一方で「ゼミ」や「演習」を挙げる回答者は目立って少ない。

以下に見るようにこの傾向は複数の学科における平均的な傾向としては、大学カテゴリー